第 21 回　長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会　議事録（概要）

〔日　時〕　平成 27 年２月 10 日　13:00～17:00
〔会　場〕　東京ステーションコンファレンス 606
〔出席者〕　専門委員　７名
長野広域連合　８名
日本環境衛生センター　１名
八千代エンジニヤリング　５名

協議事項

（１）第 20 回委員会議事録の承認について

議事録について承認された。

（２）Ｂ焼却施設の事業手法調査・検討について

＜委員意見等＞

- 建設費が高額であるので、予定価格を算出する段階では他事例を考慮のうえ精査するべきである。維持管理費についても同様である。
- 補修にかかる費用は処理方式によって異なり、経年変化等について事例を収集し考慮する必要がある。
- 長期包括委託で得られたＶＦＭの値は設計・建設事業者が維持管理・運転業務を受託した場合に限られることを考慮する必要がある。
- ＤＢＯ方式では運営・維持管理業務を見据えた設計によって、機器の取り替えが予め不要とすることができるなど、維持管理費を低減する工夫がある。
- 長期包括委託方式を運営・維持管理業務を包括的かつ長期間にわたって同一事業者へ委託するものと捉えると、設計・建設の性能発注とするのか、建設の仕様発注とするのかを明確にする必要がある。

（３）Ｂ焼却施設の計画ごみ質について

- Ｂ焼却施設及びＡ焼却施設の稼働に当たって、分別区分や収集形態等は現状と変わらないことを確認した。
- 現在不燃ごみは破砕しておらず、磁力選別機で選別される金属類及び小型家電以外はすべて埋立を行っている。
- 運営・維持管理を民間委託する場合、ごみ量・ごみ質の変動リスクは発注者が負うケースが多い。

（４）Ｂ焼却施設の配置・動線について

＜委員意見等＞

- 施設配置・動線計画を考慮する場合は、周辺環境についても記載すべきである。
- 緑地や搬入道路の位置については周辺住民の意見等を踏まえた上で、設定する必要がある。
- 一般車両の出入りが多い場合、ランプウェイは一方通行の方が適切ではないかと考える。